

平成 25 年 熊本県老人福祉施設協議会研究大会 発表原稿

「三和苑 装飾活動、ビフォー・アフター!!」

～作業療法による心身活性化の試み～

社会福祉法人 真光会

三和苑デイサービス事業所

発表者 泉 宣行 (副主任)

川上 清美 (看護職員)

サポート 中村 浩二 (主任)

① ただ今から、三和苑デイサービスセンターの研究発表を行ないます。

まず初めに、私たちの事業所を簡単にご紹介します。場所は熊本市西区、県道小島一高森線沿いで、この道路の最も西の端に位置し、熊本市西区役所も近くにあります。

平成 19 年 10 月にオープンし、定員 30 名のデイサービス事業を行なっています。「利用者との和」「地域との和」「職員の和」という、三和の精神を理念とした上で、家庭的な雰囲気の中で「笑い」の絶えないサービスを提供し、利用者の方々の心身の活性化を図りながら、在宅支援を行なっています。

今回の研究発表のタイトルは「三和苑 装飾活動!! ビフォー・アフター」、サブタイトルを～作業療法による心身活性化の試み～として、テレビの人気番組を少しばかりパロディー化して、親しみやすくまとめて見ました。

② この取組みを行なった背景ですが、私たちの三和苑デイサービスセンターも開設 5 年目を迎え、建物の内装・外装にあまり変化がなく、むしろ傷や汚れが目立ってきました。そこで、施設内外の装飾を、利用者と共に行なうことによって、もっと明るく利用者がくつろげるような環境・空間・雰囲気作りをして、利用者を楽しんでもらい、また作業そのものを利用者の心身活性化に活かそうと考えました。そして、その効果を明らかにすることができたらと考えました。

③ ケアの一環として行なうわけですから、この装飾活動を実施する上で、いくつかの取り決めを行いました。

それは作業を押しつけない。各個人の好みや能力に合った作業を行い、ゆっくり休憩を取りながら行なう。職員が利用者様と一緒に楽しく作業をし、利用者様同士の交流を図る場とする、などです。

④ 続いて、装飾場所と作業目標の設定です。

外壁 何の目印もなく、来客に判りづらいのが問題です。この建物が何なのか、一目で判るようにすることにしました。

玄関 飾りけがなく、利用者様を送り迎えするにも殺風景です。気持ちよく出入りしてもらうように工夫することにしました。

ホール・食堂

利用者の皆さんが最も多く時間を過ごされる場所ですが、装飾にあまり変化がありません。ここに話題の新幹線を走らせ、また、窓はステンドグラス風にするにしました。

風呂 閉鎖的な空間にあり、エアコンの室外機が見えたりして、うっとうしくて風情がありません。気持ちよく入れるように、せめて銭湯並の展望感を考えることにしました。

廊下 トイレやリハビリルームに通じる普通の廊下ですが、ただ何気なく通るだけです。ここに、思い切って昭和30年代のレトロの町並みの再現を考えることにしました。

⑤ 次に、使用した材料です。決して高価なものではなく、ダンボール、色紙、ガムテープ、両面テープ、絵の具、墨汁、マジックペンなどのほか、卵パックやペットボトルのキャップなどの廃物を利用することにしました。

⑥ 実際の作業の様子をご覧ください。

- ・ 先程も申しましたように、本人の希望や得意分野に応じてグループに分かれてもらい、職員も一緒に楽しくコミュニケーションを取りながら進めます。
- ・ 皆さん、作業を楽しみながら、和気あいあいの中にも真剣に取り組まれています。
- ・ 昔のことを思い出し、懐かしい昔話に花が咲きました。昔話では利用者も生き生きとられます。職員も知らないことを沢山教わりました。
- ・ 作業としては、切ったり、ちぎったり、貼ったり、絵の具や墨汁を塗ったり、丸めたり、組み立てたり。

- ・マジックペンで卵パックに色を塗る作業は、とても根気が要ります。
- ・皆さん協力しながら、作品を作り上げていきます。
- ・とても器用な方も、また不器用な方もいらっしゃいます。手元の器用な方には細かい作業をしていただき不器用な方には、塗るといっ大まかな作業を担当していただきました。
- ・肩を張らずに何気ない会話を楽しみながら、無理なく取り組んでいただきました。
- ・それぞれ、自分に合った作業をしておられます。
- ・認知症の進んだ方は、それとなく一つのテーブルに集まっていたいただき、簡単な作業に集中していただき、耳の遠い方には大きな声で説明しています。
- ・実際に職員がやって見せたり、利用者と職員が一緒になって作業したり、書道が得意な方には文字を担当していただきました。こちらでは職員が作業にアドバイスをいただいています。

以上のように作業の取組みを進めましたが、作業開始当初は、製作に興味を示す方は、全体のおよそ 1 割程度でしたが、10 か月後には、積極的な活動参加者が 9 割に及びました。

残りの一割の方は視覚障害の方、手先のマヒがある方、重度の認知症の方などで、参加がなかなか困難な現状でしたので、これらの方にはカラオケやゲームなど他の活動を、マイペースで行なってもらいました。

⑦ ここで、いくつかの個別的な事例を紹介します。

中度の認知症のある K さん、週 4 日利用されます。毎日、午後になると帰宅願望が強く現れていました。午後から入浴介助に職員が多く付き、K さんへの個別対応が手薄になることが大きな原因ですが、この方に貼り絵、塗り絵、組み立てなどの作業を任せるところ、認識が高まり、帰宅願望が見られなくなりました。任された作業を、自分の仕事であると認識され、役割分担の自覚ができたものと考えられました。これによって集中力も生まれ、帰宅願望も消え、落ち着かれたと判断しました。

製作に全く関心のなかった 95 歳の S さんです。耳が遠く、少し

認知症もあり、理解力も不十分でした。この方には職員が隣に座り、ただ見ていただくだけから始めました。何度もコミュニケーションを図りながら、手伝っていただくように声を掛けると、最初「できない」「めんどくさい」「したくない」といった言葉が返ってきました。

しかし、根気強く言葉を掛けるうちに、変化が現れ始め、次第に拒否的ではなくなりました。3か月後には、「私がするけん、持ってお出で」と、自発的な言葉が聞かれるようになりました。声掛けをしながら実際に作業を行なって見せるうちに、自然に興味を抱き、やってみると、自分で作品ができて、やればできるんだという気持ちに変化し、動機付けから意欲、それから自信、そして心身の活性化というように連鎖したように思いました。

- ⑧ 作業療法の取組みは、あまり関心がない利用者様に対していかに関心を持ってもらい、意欲を引き出し、実施に持っていくかが問われると思いました。

また、作業を実施していく中で「自分にできるかな」という不安を、様々な動機付けや完成の喜びによって、「自分もできるのだ」という自信に、いかに繋げるかがカギでした。

矢印のように、作業の過程から職員が付き添い動機付けをすることによって、意欲を引き出すということが大切なポイントでした。

そして、結果として「自分もできる」という自信が生まれ、それが達成感・満足感・喜び・幸福感・心身の健康の維持となり、介護予防につながることを確信しました。

- ⑨ それでは三和苑デイサービスが取り組んだ、利用者様と職員の作業の結果をご覧ください。

「三和苑、装飾。ビフォー、アフター」

- ⑩ 建物の外壁です。「ご覧ください」。このように大きな文字が書かれました。文字の前には、三和苑デイサービスを象徴するように、利用者の笑顔が描かれています。車の行き交う道路からも、はっきりと事業所の存在が判ります。文字の前には利用者様の喜ばれる顔が描かれています。

⑪ 次に玄関です。この殺風景な外観が、「ご覧ください」。今や全国的に知名度の高いクマモンが、にこやかに来客を迎えています。利用者様も、明るい表情で、足どりも軽く来苑されます。

⑫ 続いて、ホールです。以前は飾り物も少なく、季節ごとの絵を張る程度でした。「ご覧ください」。新幹線が現れました。開通して2年、最初は三和苑でも見学ツアーを組むなど、大フィーバーでした。「新幹線に実際に乗りたい」という気持ちがこの製作に表れております。新幹線の窓に貼った写真によって、皆さん乗った気分になられ、大喜びです。

ホールの反対側には通気窓があり、装飾など考えられない状態でしたが、「ご覧ください」。ステンドグラスみたいです。午後3時頃になると、西日が当たり、虹色の光線がホール内を幻想的に照らします。卵パックに色塗りされた利用者も大喜びです。

⑬ 次は浴室です。こじんまりとした浴室の展望テラスは、ボイラーやエアコンのファンなどで趣もありませんでした。それでは「ご覧ください」。突然富士山が現れました。風呂といえば、日本の象徴富士山の絵。これを、実にペットボトルのキャップで作りあげました。雨にも堪えるように作るのは、根気の要る作業でした。

富士山をバックに、温泉気分浸られる利用者さんたちです。「言い湯だな」の歌が出てくるのも当然でした。

⑭ 最後に、訓練室やトイレなどに通じる通路です。以前は何気なくただ行き来する場所でした。それでは「ご覧ください」。廊下が町並に変わっています。その名も「三和町昭和通り」。

そこは今から4～50年前にタイムスリップした昭和の空間です。利用者にとっては働き盛りの日々でした。毎日毎日懸命に働き、日本の右肩上がりの経済を支えた、古き良き時代がよみがえります。生き生きと活躍していた昔、その懐かしい場面に出会うことによって、皆さん人生を振り返り、しみじみとられました。と同時に、何だか若返って、元気が湧いてこられたようです。

⑮ これらは、ほとんどダンボールの紙で作られており、電話器や電柱、頭上の看板などはいずれも、落下しても怪我がないように取り

付け、リスクにも配慮しています。また、視察などにも堪えうるように、すぐに取り外し、元の状態に戻すことができます。

- ⑩ このような昭和の町作りを行なったことで、利用者の方々は自分たちが輝いていた頃の昔話に花が咲き、お互いの交流の場としての機能も十分に果たしています。

また、安全のために手すりも残し、何事もないよう地蔵に無事を見守ってもらっています。

- ⑪ 最後に、職員側の反省をしておきます。

職員一人ひとりのこの計画への参加意識が大切でした。最初は幾分のバラツキもありましたが、作業の進捗(しんちやく)に伴い、一人ひとりの工夫や創作意欲が高まり、各自が進んで役割分担をするようになりました。

職員各自の自主性がチームワークや協働作業のカギとなり、それがそのまま利用者に反映されました。その点でうまくいったと総括しています。

- ⑫ 補足ですが、発表中の音楽とクマモンの使用許可については、当該放送局並びにオフィシャルサイトの了解を得ています。また、利用者の写真についても、本人・ご家族の了承を得ております。

ご静聴ありがとうございました。